



清水（名古屋税関管内）

歴史と人情味・国際色溢れる港まち 清水

清水税関支署総務課 総務係長

松川 淳

① はじめに

清水税関支署は、世界文化遺産構成資産に登録された風光明媚な「三保の松原」を有する三保半島に囲まれた清水港を目の当たりにする場所に位置しており、管内には3つの開港（清水港、田子の浦港及び御前崎港）と1つの税関空港（富士山静岡空港）を有するなど、全国の税関支署の中でも比較的大規模な税関支署の一つとなっております。

② 沿革

明治30年、清水港が「開港外国貿易港」に指定されたことに伴い、同年7月に清水波止場会社内に「清水横浜税関支署」が設置されました。当時の清水税関支署は、横浜税関の管轄支署でしたが、昭和12年10月に名古屋税関が設置されたことに伴い、現在の名古屋税関の管轄となりました。

ここで皆さんに当時の様子が分かる和歌が一首ありますのでご紹介いたします。

「我れは今 楊子くゝべず前に置く 清水港の税関と富士」

これは歌人、与謝野晶子が清水港に来て詠んだ歌です。晶子の門人であった菅沼宗四朗が昭和10年11月に清水税関支署長として着任した後、晶子を清水へ招きました。この歌は、晶子が来清し、



清水税関支署長室に飾られた晶子の歌

支署長宿舎での昼食後のひとときに、

「楊枝を口にせず、しばし税関の整然さと富士山の秀麗さに見とれた晶子の心情を表現したもの」と言われており、晶子が当時見た富士山の美しい情景が浮かんできます。

③ 管内の話題

○冷凍マグロ輸入額全国第1位

清水と言えばマグロと言われるほど、清水はマグロで有名です。平成28年の財務省貿易統計によると、生鮮・冷凍まぐろの清水港での輸入額は全体の約7割を占め、全国1位を誇っています。清水港では、毎年10月に「清水港まぐろ祭り」が開催され、静岡市をはじめとした行政機関や関係団体・市民とが一体となり、県内外に向けマグロの魅力や美味しさをPRしています。



清水港まぐろ祭りの様子

○国際クルーズ拠点港

平成29年1月に国土交通省の「官民連携による国

際クルーズ拠点港」に清水港が選定されたことを受け、現在、清水港を管理する静岡県と香港に拠点を置くクルーズ船運航会社「ゲンティン香港」社とが連携し、旅客ターミナルビルの改修・整備計画が進行中です。清水港へのクルーズ船の入港数は、年々増加しており、富士山が世界文化遺産に登録された2015年が13回、2016年が18回、そして昨年2017年は38回と大幅に増加しました。現在、静岡県は2020年には年間90回、2030年には175回までに引き上げることを計画中です。

静岡県、静岡市、港湾関係団体などは、清水港と周辺地域の街づくりを推進するため、平成30年4月に「清水みなとまちづくり公民連携協議会」を設立し、国際クルーズ船の寄港数が増加している清水港の更なる開発を目指すこととしており、今後、清水港周辺地域の更なる発展が期待されます。



清水港へ入港するクルーズ船



静岡名産品の販売コーナー

4 管内の名所

○清水次郎長生家

清水と言えば、清水の次郎長です。その生家はその名も「次郎長通り」という商店街にあり、次郎長や大政・小政の写真、次郎長が使った道具類、資料などが展示されています。居間なども当時のまま保存されています。ちなみに、次郎長の本名は山本長五郎です。山本次郎八の養子で、次郎八の息子の長五郎なので、「次郎長」と呼ばれていることはご存知でしたか？



○梅蔭禅寺

開山は足利時代と伝わる名刹です。境内には、1893年（明治26年）に亡くなった清水次郎長、子分の大政・小政や女房お蝶のお墓があります。境内には次郎長の銅像が建てられ、その向かいには愛用の着物や煙管、小政の木刀などを展示する次郎長資料館があります。



○清見寺

約1300年前の白鳳時代、東北の蝦夷に備えて設けられた関所「清見関」が始まりと言われています。室町時代には足利尊氏公も崇敬し、官寺と定め全国十刹の中に置かれ保護されました。江戸時代には徳川氏の庇護を受け、東海道沿いにあることから、朝鮮通信使の接待が行われました。寺には朝鮮通信使が書いた漢詩や絵画など残されています。風光明媚な高台にあり、雪舟や夏目漱石など多くの文人が訪れたとされています。



○興津坐漁荘

明治から昭和にかけて活躍した元老・西園寺公望が、70歳になった大正8年（1919年）に、風光明媚な清見潟に臨む清見寺に老後の静養の家として建てられた別邸を忠実に復元したものです。（別邸そのものは、老朽化のため、現在、愛知県の明治村に移転され、国の重要文化財として公開されています。）のんびりと釣りでもして過ごすという意味を込めて「坐漁

荘」と名付けられ、当時は、「興津詣で」と呼ばれる首相や政府要人による訪問が頻繁に行われていたそうです。



5 グルメ

○清水もつカレー

戦後間もない昭和25年、静岡市清水区所在の「金の字本店」の故杉本金重氏が考案したもので、満州で覚えたカレーと名古屋の土手煮をヒントに誕生したのがはじまりとされています。もつの食感の良い歯ごたえとカレーとの組み合わせは抜群で、清水にお越しの際には是非ともご賞味いただきたい一品です。



○地酒

静岡県は、富士山や南アルプス等の山々からの伏流水が豊富で酒造に適した条件が十分整っているため、富士川をはじめ、天竜川や大井川、安倍川等の水源を中心に蔵元が広く分布しています。静岡県の地酒は毎年、全国各地で開かれる鑑評会で数々の賞を受賞しており、吟醸王国・静岡と称される評価を得ています。



臥龍梅

英君

正雪

清水を代表する地酒

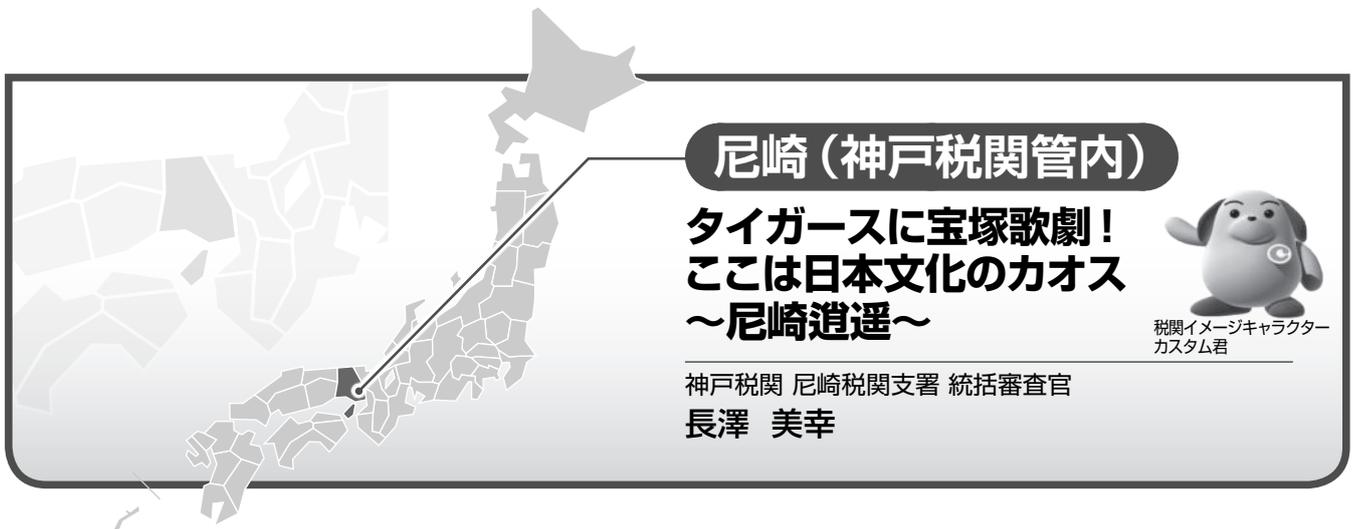
左から臥龍梅（三和酒造株式会社）、英君（英君酒造株式会社）、正雪（株式会社神沢川酒造場）

6 おわりに

幕末から明治を駆け抜けた清水次郎長は、晩年、社会事業家に転身し、お茶輸出による清水港の発展などに尽力したと言われています。清水港が現在発展しつつあるのも次郎長の功績のおかげと言っても過言ではありません。今後ますます変貌を遂げつつあるみなとまち清水、歴史的な文化を味わえる清水、そして次郎長が愛した人情味溢れる清水のまちを皆さんも是非とも味わってみてはいかがでしょうか？

【参考文献】

- ・清水税関支署100年史
- ・静岡市観光ガイド
- ・しずおか観光情報
- ・静岡県酒造組合パンフレット



① はじめに

尼崎市は大阪から電車で約7分に位置する人口約45万人の中核都市です。大阪からも近く、電話の市街局番が大阪の「06」で始まることから大阪府の市だと思われがちですが、尼崎市は兵庫県の市。では、なぜ尼崎市の市外局番が大阪「06」なのかというと、明治27年に大阪電話交換局が開設された際に尼崎の大手企業が自社の大阪出張所との電話架設を申請し、尼崎と大阪の伝法間の電話線を寄付したからなのです。

そんな尼崎市に所在する尼崎税関支署は神戸税関の最も東にある官署で、尼崎市・西宮市・伊丹市・宝塚市・川西市及び川辺郡を管轄しています。

「あまがさき」という地名は、鎌倉・室町時代の記録には「海土崎」、「海人崎」、「海崎」とも書かれており、「海土」（あま＝漁民）が住む海に突き出た場所（＝崎）というのが由来だと言われています。

税関官署といえば港や空港にあるイメージが強いと思いますが、ここは住宅街にひっそりと建つ、平屋建ての庁舎で税関旗がなければ役所だとは思われない、支署長以下9名の小所帯です。



尼崎税関支署管轄図

② 管轄区域の名所・旧跡・観光スポットの紹介

全国的にはそれほど知られていない尼崎税関支署で

尼崎 (神戸税関管内)

タイガースに宝塚歌劇!
ここは日本文化の caos
~尼崎逍遥~



神戸税関 尼崎税関支署 統括審査官
長澤 美幸

すが、管内には、全国的に知られている名所・旧跡・観光スポットが数多くありますのでご紹介します。

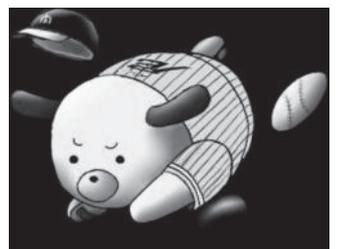
●甲子園球場 (西宮市)

正式名称は「阪神甲子園球場」。

阪神タイガースの本拠地であるとともに、「全国高等学校野球選手権大会」(夏の甲子園)、「選抜高等学校野球大会」(春の甲子園)が開催される全国高校球児憧れの聖地です。今年は夏が第100回、春が第90回の節目となる記念大会が開催されます。

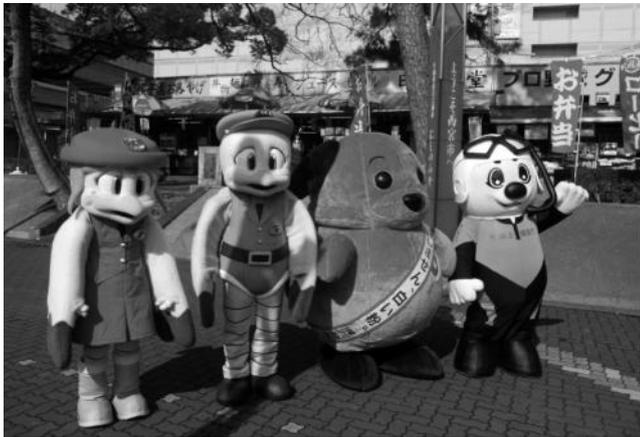


阪神タイガースの試合が開催される日には、縦縞のユニフォームに身を包んだタイガースファンで阪神電車と球場周辺が



いっぱいになり、関西出身ではない筆者はファンの方のいで立ち(その格好で自宅から?)、阪神愛に度肝を抜かれたものです。

なお、春・夏の高校野球開催時には、税関、警察、海上保安庁の取締関係機関と地域有志の方々と合同で薬物乱用防止キャンペーンを行っています。



薬物乱用防止キャンペーンの様子

●宝塚大劇場（宝塚市）

説明するまでもなく誰もが知る宝塚歌劇団の本拠地「宝塚大劇場」。



宝塚大劇場外観

宝塚歌劇団は1914年の初演以来、数々のスターや「ベルサイユのばら」や「風と共に去りぬ」といった名作を輩出している女性だけで構成された歌劇団です。

公演日には、宝塚大劇場の前の「花のみち」や劇場付近は観劇を心待ちにするファンでいっぱいになります。

宝塚歌劇の公演は、お芝居とショーの二本立てが主流。お芝居は宝塚歌劇のオリジナル作品はもちろん、意外なところではコミックの「ルパン三世」やテレビドラマで大人気の「相棒」といった作品を原作としたものもあります。公演ごとに様々なジャンルのお芝居、そして豪華絢爛なショーを楽しむことができるのも魅力の一つなのです。



大劇場ロビー

ところで、宝塚歌劇団の初演は、宝塚への集客施設「宝塚新温泉」（宝塚ファミリーランドの前身）内にあった室内プールを改造した劇場で行われたのはご存知でしょうか。プールにフタをして客席とし、脱衣所を舞台としたそうで、今の荘厳な宝塚大劇場からは想像もつきませんね。



宝塚駅前のモニュメント

●酒蔵のまち（伊丹市、西宮市）

伊丹は「清酒発祥の地」*1と言われています。伊丹では江戸時代のはじめに「三段仕込み」という現代に通じる日本酒の製法が開発さ



れ、将軍の御前酒に指定されていました。現在も2つの酒造会社が製造を続けており、そのうちの1社が1600年代から製造している清酒は現存する最古の清酒銘柄の一つとして有名です。

*1) 清酒発祥の地としては伊丹市の他、奈良市という説もあるそうです。

一方、西宮は「灘の生一本」で知られる「灘五郷*2」の一面に位置し、国内の大手日本酒メーカーの本社、酒蔵が点在します。



蔵開きの様子

毎年2月から3月にかけて西宮市内の6つの蔵元が蔵開きを行い、できたての新酒を味わったり、酒蔵を見学したりと多くの観光客で賑わっています。

●尼崎城（尼崎市）

江戸幕府が元和3年（1617年）に当時の藩主戸田氏鉄に命じて築城させたのが尼崎城で、今年に築城400年にあたります。明治6年（1873年）の明治政府による廃城令により、尼崎城は取り壊されましたが、現在、尼崎を創業の地とする大手家電量販店の創業者が10億円の私財を投じて当時の本丸の4分の1のスケールで尼崎城を再建しています。完成後は尼崎市に寄付され、尼崎市も「尼崎城プロジェクト」と銘打ち、市の歴史的シンボルとしてシビックブライトの醸成に繋がるように様々な取組みを行っています。尼崎城の再建場所は元の本丸からは北西約300メートルに位置し、当支署からは歩いてすぐの場所です。平成30年中の完成を目指しており、支署職員は毎日完成途上の尼崎城を眺めながら出勤しています。



尼崎城完成予想図

●近松門左衛門ゆかりの広濟寺（尼崎市）



広濟寺

江戸時代に活躍した浄瑠璃・歌舞伎作家、近松門左衛門。「東洋のシェークスピア」とも呼ばれ、江戸文禄文化においては井原西鶴や松尾芭蕉と並び称されています。代表作は「曾根崎心中」。

その近松門左衛門の墓所が広濟寺にあります。荒廃していた広濟寺の再興に関わる協力者の一人が近松門左衛門だと言われており、本堂裏には「近松部屋」と呼ばれた小屋まで建てられたそうです。お寺に隣接して「近松記念館」があり、彼の文机や掛け軸などゆかりの品が展示されています。

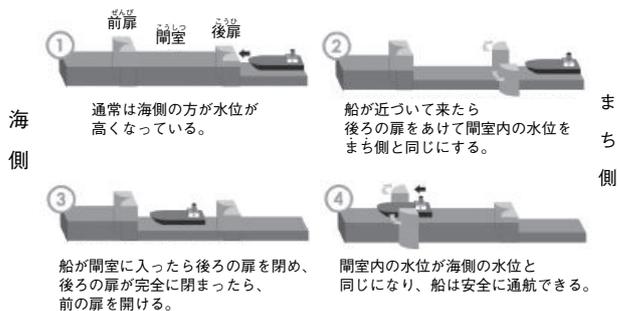


近松門左衛門の墓所

●尼ロック（尼崎市）

正式名称は「^{こうもん}尼崎閘門」。閘門とは水位の異なる水面で前後の2つの水門を交互に開閉することにより、潮位の高い海水が運河内に流れることを防ぎながら船が航行できるようにした水門のことです。

尼ロックのしくみ



*2) 灘五郷とは、日本を代表する酒どころの一つで、西郷、御影郷、魚崎郷、西宮郷、今津豪の総称で、神戸市灘区、東灘区、西宮市に亘る地域を指します。

尼崎市では工業化が進むとともに工場による地下水の汲み上げが続けられ、地盤が2~3mも低下し、市内の広い範囲が「海拔ゼロメートル地帯」となっています。その結果、昭和9年（1934年）の室戸台風や昭和25年（1950年）のジェーン台風では浸水の大きな被害を受けました。その浸水対策の一環として建設されたのが「尼ロック」なのです。構造は、かの有名はパナマ運河と同じ閘門方式で、現在も年間約8000隻の船がこの閘門を航行し、市内企業の物流に従事しています。



尼崎閘門

さあ、ここまで読んでいただいたら、見所満載の尼崎管内を訪れたいはずですよ。

春は観光にはもってこいの季節、ぜひ尼崎管内にお越しください。